

## 2020 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	LFA 食物アレルギーと共に生きる会
活動テーマ	アレルギー団体、行政、企業と共に考えるアレルギー対策及びネットワーク構築

### 【目的】

被災地経験者の声を生かし、今から実践できる対策を提案すること。  
また、アレルギー団体・行政・企業と共に災害時のアレルギー対策について情報を共有し、ネットワークを構築すること。

### 【実施方法】

当初、関西での対面会議を行う予定だったが、コロナの影響がありオンライン講演に切り替え実施。  
Zoom での講演を YouTube ライブ配信、後日、アーカイブ録画 2 週間。  
農林水産省による備蓄の現状とスミ、被災地経験者の実際の声、支援者側にいる市民活動センターの活動、実際に支援した地域市民の声、LFA お勧めのアレルギー配慮商品メーカーからの商品説明を実施。  
事前にお申込みのあった参加者に向け、アレルギー配慮商品を郵送。  
全国にあるアレルギーの代表 6 名と一緒に、各会のお勧め商品について話すトークタイムを作った。  
実際にアレルギー配慮商品を作っているメーカーに協力して頂き、商品の説明をオンライン上でリアルタイム試食を実施。

講演告知方法は、Facebook、Instagram などの SNS を中心に、全国の都道府県、及び市町村の危機管理課へメールにてお知らせを送付した。

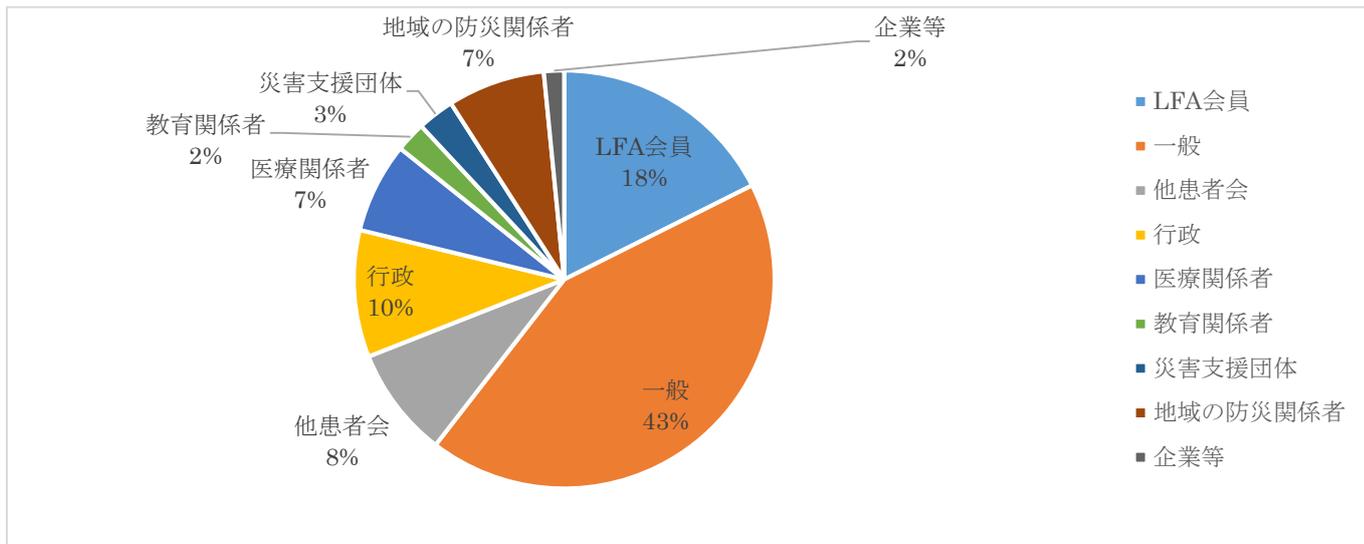
### 【成果】

対面がオンラインに切り替わったことで、全国からの講演参加申し込みが開始から 3 週間程で 400 名を超え、全国各地からの行政参加も多くあった。  
食物アレルギーの患者側の声だけでなく、支援する側の声が今回聞けたことにより、事前に取れるアレルギー対策について、自分の立場での動き方について参加者全員が考えることができた。  
また、実際にオンラインを繋ぎながら事前を送付した試食を同時に食し、自助への促進に大いに役立った。

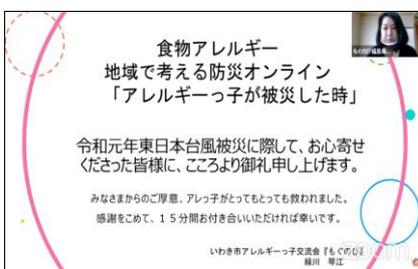
今回の講演会をキッカケに、アレルギー対策へ必要性を再認識した行政機関や、災害支援、市民団体、防災士団体が多くあり、その後、各地で地域のアレルギーの会と共に、自分たちの地域にあったアレルギー対策を考える会議や講演が行われた。(2021 年度開催予定の案件もあり)  
これは非常に大きな一歩である。

保健課や、危機管理課を中心に、日曜開催の講演会に参加できなかった方々から、研修として講演内容を使いたいというお申し出もあり、アーカイブ録画配信の延長を 2 度に渡り行った。

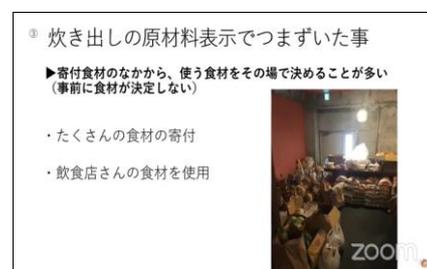
コロナ禍でも自然災害は起きている現状。  
オンライン開催と形は変わったが、変わりに全国の人が参加できたことや  
普段は講演してもらうことが難しい遠方の講演者の方々にも参加してもらうことができたことは非常に意味があった。更にアレルギーへ対する理解が増え、事前に対策を考える機会が増える結果となった。



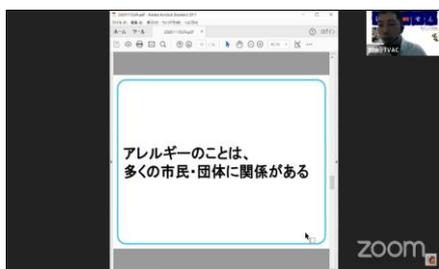
「家庭備蓄について」  
農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 鈴木 健太氏



「アレルギーっ子が被災したとき」  
いわき市アレルギーっ子交流会 『もぐのび』緑川 琴江氏



「アレルギーの人を支援しようとしたとき」株式会社 Cocomochou 飯田 さおり氏



「地域との連携の必要性」  
東京ボランティア・市民活動センター 加納 佑一氏



「今私たちにできること」  
LFA 代表大森真友子



発送した試食製品例



全国各地のアレルギー団体代表



メーカー様からの商品説明